

## プロダクトデザイン(Product Design)

担当教員名	逸身 健二郎	
学科・専攻、科目詳細	電気情報工学科 電気電子工学コース 5年 前期 1単位 講義	
学科のカリキュラム表	専門科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	基礎工学科目 設計・システム系	
学習・教育目標	共生システム工学	C-1(25%) D-2(50%) H-3(25%)
	JABEE基準1(1)	(b)(d)(e)
科目的概要	プロダクトデザインがなぜ製品開発において重要であるかを理解してもらうことが目的です。今日ではデザインの役割が、単なる設計領域に留まらず、商品開発の企画領域から販売に至るまで、あらゆるところでその活用が認識されてきました。プロダクトデザインの意義およびその実際をさまざまな商品を通して解説していきます。同時に技術者にとっても必要となるデザイン手法を知り、製品開発能力の向上に役立ててもらいます。	
テキスト(参考文献)	(参考書) 逸身健二郎:「プロダクトデザインガイドブック」、美術出版社。参考の図書とし、できれば購入すること。新本がない時、中古(古書)でも良い。	
履修上の注意	予備知識として、上記参考文献を全編を読んでおくこと	
科目的達成目標	(1)商品の社会に対する重要性を認識し、技術者としての責任を理解する。 (2)プロダクトデザインに関する知識を得、その重要性を認識する。同時にその手法を商品開発において活かせる能力を養う。 (3)他分野としてのプロダクトデザインを活用する(デザイナーとの協力)能力を養う。	
自己学習	上記の参考文献を読み、講義の予習、復習とする。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/3以上の欠課
	成績は、前期レポート(50%)および後期レポート(50%)を総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。 前期レポートでは上記達成目標の(1)、(2)の達成度を評価する。 後期レポートは後半に行う演習課題の提出を意味し、その成果を評価する。 後期レポートでは上記達成目標の(2)、(3)の達成度を評価する。 中間試験および期末試験は各々レポート提出に代える。 レポート内容:「プロダクトデザインの意味するところを明確にし、その重要性について記述する。」	
連絡先	suyama@akashi.ac.jp(連絡員)	

授業の計画・内容	
<b>第1週 ガイダンス</b>	講義の意義・目的、進め方を中心に説明する。同時に学生のデザインに対する意識を認識する。
<b>第2週 デザインとは</b>	環境系、情報系、製品系に分類されるデザイン全般の体系を講義する。
<b>第3週 プロダクトデザインとは</b>	消費者および企業にとってデザインの意味することについて、インダストリアルデザイン、工業デザインとの関連から講義する。
<b>第4週 優れた商品とは</b>	優れた商品の持つ機能を説明し、デザインにとって最も重要となる使用の機能について講義する。
<b>第5週 商品の外観設計とは</b>	商品における造形とは何かを講義する。
<b>第6週 商品の持つ価値 I :実用的価値と感覚的価値</b>	商品の持つ価値を考え、デザインからその価値を高める方法を講義する。
<b>第7週 商品の持つ価値 II :精神的価値</b>	商品の持つ価値を考え、デザインからその価値を高める方法を講義する。
<b>第8週 レポート作成</b>	
<b>第9週 デザインと人間工学 : エルゴノミクス</b>	使用性を高める方法としての人間工学的アプローチを講義する。
<b>第10週 商品企画におけるデザイン</b>	製品設計以前の商品企画におけるデザインについてを講義する。
<b>第11週 プロダクトデザインの実際</b>	プロダクトデザインにおけるデザインプロセスを説明し、そこで必要となるデザイン技法を講義する。
<b>第12週 技術者にとってのデザイン</b>	技術者にとっても役に立つことが多いデザイン手法を講義する。
<b>第13週 デザイン演習 I</b>	「液晶ディスプレイの利用方法」(操作端末に液晶ディスプレイを用いた新製品を考える)
<b>第14週 デザイン演習 II</b>	上記演習の中間発表
<b>第15週 全体まとめ</b>	プロダクトデザインの意味、その重要性を再認識する。
<b>期末試験実施せず</b>	